

学校番号	2002
------	------

令和6年度 芸術科

教科	芸術	科目	音楽Ⅰ	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	MOUSA 1 (教育芸術社)						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「歌うこと」「楽器を演奏すること」「音楽をつくること」「音楽を聴くこと」の4つの分野を年間通して学習します。</li> <li>・音楽がどのように形づくられ、そしてそれをどう感じて表すのかについて歴史的背景とともに学習を進めていきます。周りの人とともに音楽を分かち合い、音楽を通して様々なことを学びます。</li> <li>・様々な音楽にふれ、楽曲そのものだけでなく、その背景となる文化や歴史についても理解を深め、音楽の多様性について理解しつつ広い音楽的視野を身につけていきます。</li> <li>・実技テストは授業中に発表形式で行います。お互いに聴き合うことで他人の表現を知り、刺激を受け、受け止めることで感性を広げて、今後の音楽表現に生かしていきましょう。</li> </ul>
--

2 学習の到達目標

<p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</li> <li>(2) 自己のイメージを持って音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</li> <li>(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</li> </ol>
--

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
----	---------	------------	-----------------

※令和4年度以降入学生用

観 点 の 趣 旨	<p>歌唱・器楽などの音楽表現において、自己のイメージを持ち、創意工夫できるように必要な知識を取り入れ、技能を身に付けている。</p> <p>また、鑑賞を通して音楽と社会との関わりや歴史的背景などを学び理解している。</p>	<p>曲想を歌詞の内容や背景と関わらせてイメージし、曲種に応じた発声の特徴を生かすなど、学習した知識・技能を生かし、表現したい自己のイメージを膨らませながら、楽曲にふさわしい音楽表現を創意工夫しようとしている。また、鑑賞から得た知識・技能を生かし、思考・判断して創造的な表現をしようとしている。</p>	<p>主体的・協働的に幅広い活動に取り組み、その中で他者との調和を意識し、創意工夫過程で様々な表現を試している。また、楽曲の曲想や背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴に関心をもち、演奏したり鑑賞したりする学習に取り組んでいる。</p>
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>			

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学 習 内 容	単 元（題 材）の 評 価 規 準	評 価 方 法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	表 現	<p>オリエンテーション～イメージをもって歌おう</p> <p>「校歌」</p> <p>「Lemon」</p> <p>「負けないで」</p> <p>「若者のすべて」</p> <p>日本歌曲を歌おう</p> <p>「花」</p> <p>「夏の思い出」</p>	<p>a:【知】様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。【技】姿勢や呼吸などの身体の使い方の技能、他者との調和を意識して歌う技能を身に付け、表現している。</p> <p>b:親しみやすいポップスや効果の旋律・リズムを知覚し特質や雰囲気を感じながら自己のイメージを持って、表現している。</p> <p>c:音楽を幅広く様々な視点から捉えようとするに関心をもち、主体的・協働的に活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 確認テスト	レポート  実技テスト	観察  振り返りシート
		<p>ドイツ語に挑戦！</p> <p>「野ばら」</p> <p>F. シューベルト</p> <p>英語のライムを感じて</p> <p>「美女と野獣」</p>	<p>a:【知】言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。【技】曲にふさわしい発声・発音、身体の使い方などの技能を身に付け、表</p>	ワークシート 確認テスト	レポート	観察

※令和4年度以降入学生用

			<p>現している。</p> <p>b:リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、自己のイメージ、思いや意図を持っている。</p> <p>c:言葉の特性や曲にふさわしい発声で表情豊かに歌うことに関心を持ち、主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>		実技テスト	振り返りシート
		<p><b>ボディパーカッションを楽しもう！</b> 「Plymouth Rock」</p>	<p>a:様々な表現形態による特徴について理解している</p> <p>b:知覚・感受したこととの関わりを思い・意図をもって表現している。</p> <p>c: 身体の様々な部位を使って、表したイメージをもって、主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 確認テスト	レポート 実技テスト	振り返りシート
	鑑賞	<p>音楽の要素とイメージをつなげよう 組曲《動物の謝肉祭》サン＝サーンス</p>	<p>a:曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の要素の働きについて理解している。</p> <p>b:知覚・感受したこととともに音楽の意味や価値、音楽の美しさを味わって聴いている。</p> <p>c:それぞれの動物を表す音楽の要素に関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 確認テスト	レポート	観察
2学期	表現	<p>三線の音色を楽しもう 「海の声」</p>	<p>a:楽器の歴史や構造を理解し、「工工四」の読譜や奏法を身に付けている。</p> <p>b:和楽器独特の響きや特有の音階などの特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、自己のイメージを持ち、意図して表現している。</p> <p>c:学習することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 確認テスト	実技テスト レポート	観察 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

	鑑賞	<p>様々な主題とその構成を聞き取ろう</p> <p>「交響曲第9番ニ短調 op.125《合唱付き》から第4楽章」</p> <p>ベートーヴェン</p> <p>古の音楽に思いをさせよう</p> <p>「越天楽」</p>	<p>a:曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。</p> <p>b:音楽の構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら音楽の良さや美しさを自ら味わって聞いている。</p> <p>c:主題の変化や作品の特徴が音楽の構造とどのように関わっているかに関心を持ち、主体的・共働的に学習活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 確認テスト	レポート	観察
3学期	表現・鑑賞	<p>コンサートを開こう</p> <p>～音楽Ⅰのまとめとして</p>	<p>a:音楽Ⅰの一年間の学習を通して、表現や鑑賞の「知識」に関する諸事項について理解している。また、技能に関する諸事項を身に付け、歌唱や器楽、創作で表している。</p> <p>b:音楽Ⅰで学んだ教材の音楽の諸事項を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、自己のイメージを持って歌唱や器楽、創作表現としてどのように表すかについて、思いや意図を持っている。</p> <p>c:1年間の音楽学習のまとめとしてコンサートを企画実施することや、学習を経て、自分自身の音楽に対する考え方がどのように変容したかを考えることに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・共働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート (企画書)	実技テスト レポート	振り返りシート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	2002
------	------

令和6年度 芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	美術1 (光村)						
副教材等	ワークシート、プリント						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・創造的な造形力を育む態度を身につけましょう。</li> <li>・自分の個性や美的感性を磨くと同時に、他者の表現に共感する態度を磨きましょう。</li> <li>・用具や素材の取り扱いを正しく理解し、安全に気をつけて授業を受けましょう。</li> <li>・課題作品は最後までやり遂げ、完成させて提出しましょう。</li> <li>・授業のポイントや自身で気付いたことなどをメモしていきましょう。</li> </ul>
---

2 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</li> <li>・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きについて考え、主題を生成し創造的に発想したり構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めることができるようにする。</li> <li>・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</li> </ul>
--

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
----	---------	------------	-----------------

※令和4年度以降入学生用

観 点 の 趣 旨	画材、用具の扱いについて正しく理解し、表現活動に際し理にかなった取り扱いができる。	テーマや目的に応じて物事を多面的に考察し、創造的に造形する力、適切な手法技法を選択することができる。	色彩や構図法など学んだ表現技法や理論を活用しようとする態度、他者の作品に対して論拠のある共感や評価をしようとしている。
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>			

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学 習 内 容	単 元（題 材）の 評 価 規 準	評 価 方 法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	オ リ エ ン テ ー シ	美 術 と は 何 か	a: b: c:			

※令和4年度以降入学生用

	【デザイン】 色彩の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色の三属性</li> <li>・色の調子</li> <li>・色対比</li> <li>・色の機能</li> <li>・混色演習</li> <li>・色彩構成</li> </ul>	<p>a: 色彩に関する用語やその用法を理解し活用できる。テーマの意図やねらいを考えて混色する技術を身に付け表現することに関心をもつ。基本的な色彩の効果を理解し、それを主体的に構想に生かすことができる。 絵の具の特性や技法に興味を持ち、表現に創意工夫ができる。</p> <p>b: 語句からイメージを広げ、そこから連想される事物の情景や、そのイメージに相応しい象徴的な配色が発想できている。</p> <p>c: 絵の具の混色効果を理解し、目的や意図に応じ、特性や効果を生かして表現している。</p>	ワークシート  作品	ワークシート  作品	ワークシート  作品
2学期	夏季休暇鑑賞課題	高校展の作品鑑賞	<p>a: 作品のよさや、作者の心情や意図と多様な表現に関心を持ち、作品について理解しようとしている。</p> <p>b: 同上</p> <p>c: 作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、その感想を的確に表現できる。</p>	鑑賞 レポート	鑑賞 レポート	鑑賞 レポート

※令和4年度以降入学生用

	【絵画】 様々な表現技法	<p>さまざまな表現技法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な表現技法を習得し、技法を使って制作した「素材」を再構成することで新たな作品を創造する</li> <li>・課題制作</li> <li>・作品鑑賞</li> </ul>	<p>a: さまざまな表現技法の造形的要素で感じ取ったことや考えたことに関心が持てる。技法に関心をもち表現できる。技法や材料、用具の特性を理解し、目的や意図に応じて、特性や効果を生かして表現している。</p> <p>b: 感じたことや考えたことから主題を生成し、主題を効果的に表現するために構図などの画面上のバランスを工夫できる。</p> <p>c: 他者の作品の表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを味わっている。</p>	ワークシート  課題作品	ワークシート  課題作品	鑑賞 レポート
3学期	【デザイン】 切り絵で表現しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切り絵</li> <li>・作品鑑賞</li> </ul>	<p>a: 作品を造形的に表現することに関心が持てる。切り絵の表現の特性を理解し、テーマに応じて特性や効果を生かして表現している。</p> <p>b: テーマに沿って造形的なおもしろさと調和を考え主題を生成している。形や色彩などの造形的要素の働きを考え創意工夫して構想が練れる。</p> <p>c: 主体的に主題を生成し、形や色彩などの造形的要素の働きを考え創意工夫して構想が練れる。他者の作品の表現の意図や工夫を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。</p>	ワークシート  課題作品	ワークシート  課題作品	鑑賞 レポート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度



学校番号	2002
------	------

令和6年度 芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	書Ⅰ (教育図書 出版) 書Ⅰ プライマリーブック (教育図書 出版)						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

表現及び鑑賞の活動において、単に文字を美しく書くだけでなく、感受性を持って書表現を鑑賞することにより、表現の意図を理解し書写技術の向上を目指す。  
書表現が身近な存在であることを理解し、文字文化の成り立ちや歴史的背景とともに、書表現の理解を深める観点から、文字の変遷、伝統・文化に関する学習活動を実践する。  
授業の進め方については、授業毎の目標を明確化し、表現(書作の意図・書写技能)と鑑賞を並行して扱い評価については、各単元・授業毎の作品・ワークシート提出等でおこなう。

2 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
----	---------	------------	-----------------

※令和4年度以降入学生用

観 点 の 趣 旨	書の表現や形式、多様性などについて幅広く理解している。 書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美の味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

#### 4 学習の活動

学 期	単 元 (学習項目)	学 習 内 容	単 元 の 評 価 規 準 (生徒の到達目標)	評 価 方 法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	ガイダンス	「芸術としての書道」 今後の授業内容として、書写的に文字を正しく美しく書くための技能習得だけでなく、芸術的に感受性を持って鑑賞・書表現をし、書が身近なものであることや、文字の変遷、伝統・文化に関する学習活動も実践することを確認する。	a: さまざまな書体の成り立ちや変遷を知り、また、それぞれの趣の違いを感じ取る。 c: 国語科書写と芸術科書道について理解し、今後の授業に向け期待感を持って意欲的な姿勢を持っている。	ワークシート		観察
	「漢字仮名交じり」の書	「線の表現」 用具・用材などの特徴を理解し、筆の機能を体験的に学習する。 「文字で表現しよう」	a: 筆の特徴を理解し、制作時の表現意図を作品に反映させ表現している。 b: 題材のイメージに相応しい表現方法を工夫している。	作品 振り返りシート	作品 振り返りシート	相互批評 ワークシート 観察

※令和4年度以降入学生用

	<p>題材のイメージや意味を考え、それに相応しい表現を創意工夫して書作し、その難しさや面白さを体感する。</p> <p>「言葉・詩句を書こう」 単元での学習経験を踏まえ、表現を工夫することで、他作品の制作意図を考え鑑賞する能力を身につける。</p>	<p>c: 作品の相互批評を行い、自他の作品の意図を考え、個々にしか書けない文字の尊さを感じ味わっている。</p>			
篆刻	<p>「篆刻」 落款印を制作し、作品に押印できるようにする。</p>	<p>c: 押印し作品として完成させ、そのよさを味わっている。</p>			作品 ワーク シート
硬筆での楷書	<p>自分の氏名を楷書で書く 「楷書の学習」での文字構築の原理を自分の氏名に当てはめ、丁寧に美しく書くこと、普段から丁寧に書く習慣を身につける。</p>	<p>a: 文字構築の原理を自分の氏名に当てはめ、丁寧に美しく書く技能を身に付け表している。 c: 日常もっとも書く機会が多い自分の氏名を美しく書くために積極的に取り組んでいる。</p>	作品 ワーク シート		観察
楷書の学習①	<p>「書写からの展開」 書写からの展開を考え、楷書の基本点画の技能面での習得について確認する。また、楷書の文字の構築性などを考えながら書く習慣を身につける。</p>	<p>a: 筆の特徴を理解し、基本点画の習得に努め、構築性を身に付け書作している。 c: 積極的に取り組み、技術の習得に努めている。</p>	作品 ワーク シート		観察 ワーク シート

2 学期	楷書の学習②	<p>「古典臨書」 唐の四大家の作品について、形臨中心に行い、書風の違いによる表現技術の習得と鑑賞する習慣を身につける。 ・九成宮醴泉銘 ・孔子廟堂碑 ・雁塔聖教序 ・建中告身帖など</p>	<p>a: 古典の違いを技術的に書き分ける技能を習得している。 d: 各古典の表現を工夫している。 c: 楷書の成り立ちや各古典の歴史的背景と各古典の特徴を理解し、感性を持って創造的に味わっている。</p>	作品 小テスト	作品	ワーク シート 振り返り シート
	行書の学習	<p>古典臨書を中心に楷書と行書の違いを理解し、その技法を学習する</p>	<p>a: 行書の特徴を理解し、基本点画の習得に努め、古典の技法を身に付けている。 b: 各古典の特徴を理解し、感性を持って創造的に味わっている。</p>	作品	作品	観察 振り返り シート

※令和4年度以降入学生用

2 学期	仮名の学習	<p>「いろは歌」から古典の連綿まで展開して行くことで、仮名の用筆法を習得する。平仮名・片仮名の成立ちを学習する。</p>	<p>a:仮名の用筆法を理解し、基本点画の習得に努め、古典の技法を身に付け表している。 b:日本古来の仮名の古典の特徴・美しさを理解し、意図を持って創造的に表現している。 c:日本語表記も含めた、平仮名の成立ちについて関心を持ち、積極的に取り組もうとしている。</p>	作品 小テスト	作品	観察 ワークシート 振り返りシート
3 学期	文字の成り立ち ・篆書、隸書の学習	<p>書体の変遷を学習し、甲骨文字から、現在使用している「ひらがな・カタカナ」が、どのような変遷を経て成立したものかを確認する。 篆書・隸書の筆使いを学習する。 古人の古典臨書作品を鑑賞し、臨書時の表現の意図を考察し鑑賞能力を高める。</p>	<p>a:文字の変遷について関心を持ち、積極的に取り組み、技術の習得に努めている。 d:各古典の特徴を理解し、感性を持って創造的に表現できている。</p>	作品 小テスト	作品	観察 ワークシート 振り返りシート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	2002
------	------

令和6年度 芸術科

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	MOUSA 2 (教育芸術社)						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「歌うこと」「楽器を演奏すること」「音楽をつくること」「音楽を聴くこと」の4つの分野を音楽Ⅰの学習経験を基盤として、学習していきます。</li> <li>・音楽を形づくっている要素の働きが楽曲の特徴にどのような役割を果たしているかを理解していきます。</li> <li>・音楽文化についての理解を深めるために、音楽が文学や絵画などの諸芸術や他の文化と互いにどのように影響しあって発展してきたかを様々な教材を通じて考えます。</li> <li>・実技試験は授業中に発表形式で行います。お互いに聴き合うことで他人の表現を知り、刺激を受け、受け止めることで感性を広げて、今後の音楽表現に生かしていきましょう。</li> </ul>
--

2 学習の到達目標

<p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 音楽Ⅰの学習成果を踏まえ、文化的・歴史的背景や音楽の多様性について理解を深め、より広い視野で音楽を捉えることができるようにする。</p> <p>(2) 個性豊かな音楽表現を創意工夫できるようにするために、必要となる技能を身に付け高めることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的・協働的な音楽活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度や音楽の知的財産権を尊重する態度を養う。</p>
--

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
----	---------	------------	-----------------

※令和4年度以降入学生用

観 点 の 趣 旨	<p>歌唱・器楽などの音楽表現において、学んだことを取り入れ、自己のイメージを持ち、創意工夫できるように必要な知識・技能を身に付けている。</p> <p>また、鑑賞を通して音楽と社会との関わりや歴史的背景などを学び理解し、文章表現できている。</p>	<p>曲想を歌詞の内容や背景と関わらせてイメージし、曲種に応じた発声の特徴を生かすなど、学習した知識・技能を生かし、表現したい自己のイメージを膨らませながら、楽曲にふさわしい音楽表現を創意工夫しようとしている。また、鑑賞から得た知識・技能を生かし、思考・判断して創造的な表現をしようとしている。</p>	<p>主体的・協働的に幅広い活動に取り組み、その中で他者との調和を意識し、創意工夫過程で様々な表現を試している。また、楽曲の曲想や背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴に関心を持ち、演奏したり鑑賞したりする学習に意欲的に取り組んでいる。</p>
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>			

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	表 現	<p>オリエンテーション～クラス の歌声を響かせよう</p> <p>「SUN」 「歩いて帰ろう」 「ハナミズキ」</p>	<p>a:【知】様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。【技】姿勢や呼吸などの身体の使い方の技能、他者との調和を意識して歌う技能を身に付け、表現している。</p> <p>b:親しみやすいポップスや効果の旋律・リズムを知覚し特質や雰囲気を感じながら自己のイメージを持って、表現している。</p> <p>c:歌詞の内容や作詞者・作曲者のメッセージを考えながら二部合唱で歌うことに関心を持ち、主体的・協働的に活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 確認テスト	レポート  実技テスト	観察  振返りシート
		<p>イタリアの歌の世界 「Nel cor piu non mi sento」</p>	<p>a:【知】曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、それらによって生みだされる表現上の効果について</p>	ワークシート 確認テスト	レポート	観察

※令和4年度以降入学生用

			<p>て理解している。【技】創意工夫を生かした歌唱表現するために発声・発音の技術を身に付け表現できている。</p> <p>b:音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、個性豊かに表現を創意工夫できている。</p> <p>c:言葉の特性や曲にふさわしい発声で表情豊かに歌うことに関心を持ち、主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>		実技テスト	振返りシート
		<p>英語でポップスを歌おう 「Can' t Take My Eyes Off Of You」</p>	<p>a: 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、それらによって生みだされる表現上の効果について理解している。</p> <p>b: 音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、個性豊かに表現を創意工夫できている。</p> <p>c: 言葉の特性や曲にふさわしい発声で表情豊かに歌うことに関心を持ち、主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 確認テスト	レポート 実技テスト	振返りシート
	鑑賞	日本の音風景を感じ取ろう	<p>a:曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、我が国の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。</p> <p>b: 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽の良さや美しさを自ら味わって聴いている。</p> <p>c:四季の自然から美しさを感じ取る日本人の美意識や伝統音楽の特徴について理解を深めることに関心を持ち、鑑賞できている。</p>	ワークシート 確認テスト	レポート	観察

※令和4年度以降入学生用

2 学期	表現	アンサンブルを楽しもう 「上を向いて歩こう」  ミュージカルの楽曲に挑戦 しよう（二重唱） 「The Phantom of the Opera」 「All I Ask of You」	a:【知】表現の固有性や多様性について理解している。音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果、様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性について理解している。【技】他者との調和を意識して歌う、表現形態の特徴を生かす技能を身に付けている。  b:和音・和声を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、自己のイメージを持ち、意図して表現している。  c:和音・和声を学習することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート  確認テスト	実技テスト  レポート	観察          振り返りシート
	鑑賞	音楽の要素に着目して、2つの曲を聴き比べよう ヴィヴァルディ「和声と創意の試み」第1集〈四季〉から「冬」 ピアノラ「ブエノスアイレスの冬」	a:曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。  b:音楽の構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら音楽の良さや美しさを自ら味わって聞いている。  c:主題の変化や作品の特徴が音楽の構造とどのように関わっているか、独奏楽器と管弦楽との対比に関心を持ち、主体的・共働的に学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート  確認テスト	レポート	観察



※令和4年度以降入学生用

3 学期	表現・鑑賞	コンサートを開こう ～音楽Ⅱのまとめとして	<p>a:音楽Ⅱの一年間の学習を通して、表現や鑑賞の「知識」に関する諸事項について理解している。また、技能に関する諸事項を身に付け、歌唱や器楽、創作で表している。</p> <p>b:音楽Ⅱで学んだ教材の音楽の諸事項を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、自己のイメージを持って歌唱や器楽、創作表現としてどのように表すかについて、思いや意図を持っている。</p> <p>c:1年間の音楽学習のまとめとしてコンサートを企画実施することや、学習を経て、自分自身の音楽に対する考え方がどのように変容したかを考えることに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・共働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート (企画書)	実技テスト レポート	振り返りシート
---------	-------	--------------------------	--	-----------------	---------------	---------

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	2002
------	------

令和6年度 芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	高校生の美術2（日本文教出版）						
副教材等	ワークシートプリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

作品制作や鑑賞をととして、自然、自己、社会などを深く見つめて主題を生み出す力を身につけましょう。  
 心豊かな表現の構想、表現形式や材料・技法の活用、形や色彩の効果を生かして個性豊かな表現を追究します。  
 主題や目的、意図に応じて、表現方法を工夫して創造的に表現することを学びましょう。  
 芸術作品の美しさや美術文化について理解を深めるとともに、自己や他者のよさを認め合い、感性を高めましょう。  
 作品の相互評価をするなど、表現活動とともに鑑賞する力を身につけましょう。

2 学習の到達目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象や、事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。</li> <li>表現技法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想して構想を練ったり、自己の価値観を高め美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、主題に合った表現方法を工夫し、創造的に表現している。</li> </ul>

※令和4年度以降入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。  
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

#### 4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	a b 主な評価の観点	評価方法		
				(a)	(b)	8c)
1学期	オリエンテーション	表現とは何か 美術Ⅰを振り返り、美術Ⅱの学習イメージを持ち、美術の学びの深まりと意味について考える	a: b: c:			

※令和4年度以降入学生用

	<p>【絵画】 「油彩画の制作」</p>	<p>油彩画の制作「静物画」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卓上モチーフデッサン</li> <li>・油彩制作</li> <li>・作品鑑賞</li> </ul>	<p>a:観察を通して考えたこと感じたことに興味を持てる。描写を通して形体の構造や描写方法に興味を持ち表現できる。技法や画材の使い方を理解し目的や意図に応じて特性や効果を生かして表現している。</p> <p>b: 観察を通して考えたことや感じたことに興味を持てる。 描写を通して形体の構造や描写方法に興味を持ち表現できる。</p> <p>c: 作品のよさや美しさ、作者の心情や意図、表現の工夫などを感じ取り感想を的確に表現できる。</p>	<p>ワークシート 作品</p>	<p>ワークシート 作品</p>	<p>レポート</p>
	<p>夏季休暇課題</p>	<p>高校展鑑賞レポート</p>	<p>a: 他者の表現に興味を持ち、作者の意図や表現に関心を持ち作品理解に努めている。</p> <p>b:同上</p> <p>c:作品のよさや美しさ、作者の心情や意図、表現の工夫などを感じ取り感想を的確に表現できる。</p>	<p>レポート</p>		<p>レポート</p>
<p>2学期</p>	<p>【デザイン】 「神の特性を生かして伝える」</p>	<p>アコーディオンブック制作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデア構想</li> <li>・ページの構成</li> <li>・制作</li> <li>・作品鑑賞</li> </ul>	<p>a: 様々なスタイルの絵本に関心を持ち、絵本を通して伝達のためのデザインに主体的に取り組める。形や色彩などの造形要素の効果的な働きについて考え、テーマに適った伝達表現の構想が練れる。</p> <p>b: 色彩効果や、絵の具の描画技法を理解し、主題をより効果的な構成方法でデザイン表現できる。</p> <p>c: 他者の作品の表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わえる。</p>	<p>学習状況の観察 アイデア スケッチ</p>	<p>完成作品</p>	<p>レポート</p>

※令和4年度以降入学生用

3学期	【絵画】 版で表す「ペーパーポイント」	ペーパーポイント ・アイデア構想 ・下絵 ・作品制作 ・鑑賞	a: 様々な生き物を表現することに興味関心を持ち、生き物のデザインに主体的に取り組める。 b: 造形要素について考え、独創的な表現の構想を練れる。主題をより効果的の画面構成で表現できる。 c: 美術作品などの表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わえる。	学習状況の 観察 アイデア スケッチ	ワークシート 作品	レポート
-----	------------------------	--	--	-----------------------------	--------------	------

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	2002
------	------

令和6年度 芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	書Ⅱ (教育図書 出版)						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

書道の幅広い活動を通して、書に関心を持ち愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、探究心を育成し表現と鑑賞の能力を伸ばす。さまざまな書体の古典を学習することで、文字の発展の過程や時代背景など理解を促す。

また、相互批評などのグループ学習をすることでコミュニケーション能力の向上をめざし、書道芸術作品と自他を尊重する心を育む。この点については各単元において実施していきたい。授業の進め方については、授業毎の目標を明確化し、表現(書作の意図・書写技能)と鑑賞を並行して扱い評価については、各単元・授業毎の作品・ワークシート提出等でおこなう。

2 学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育成するとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

### 3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	書の表現や形式、多様な どについて幅広く理解す るとともに、書の伝統に基 づき効果的に表現するた めの技法を身に着けるよ うにする。	書のよさや美しさを感じ し、意図に基づいて創造的 に構想し個性豊かに表現を 工夫したり、作品や書の伝 統と文化の意味や価値を考 え、書の美の味わい深く捉 えたりすることができるよ うになる。	主体的に書の創造的な諸活 動に取り組み、生涯にわた り書を愛好する心情を育む とともに、感性を高め、書の 伝統と文化に親しみ、書を 通じて心豊かな生活や社会 を創造していく態度を養 う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

### 4 学習の活動

学 期	単 元 (学習項目)	学習内容	単元の評価規準 (生徒の到達目標)	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	「草書」「行書」 ・十七帖 ・書譜 ・祭姪文稿 など	◆書体の変遷における行書・ 草書体の特徴の理解し、発生 の歴史的背景を理解する。 ◆さまざまな古典臨書を通 じ、変化に富む用筆法を観察 し行草体の躍動感やリズム感 を表現していくことで、技術の	d: 各古典の特徴を理解し、感性 を持って創造的に鑑賞しそのよ さを表現しているか。 c: 積極的に取り組み、行書で自 分の名前を書くに当たったの技		WS 作品	観察 WS

※令和4年度以降入学生用

		向上と鑑賞能力の向上を図る。	能習得に、興味・関心を持っている。			
	「行書」細字	◆細字での学習を行い、自分の名前を行書で書ける事を目標に取り組む。	a: 古典の技法を細字として表現する技法を身に付けている。 b: 行書の特徴を理解し、基本点画の習得を生かして表現を工夫している。	WS 作品	作品	
	「仮名」	◆用筆・運筆を理解し古典に基づく表現を工夫する。 ◆漢字の「行書」「草書」との歴史的関連性理解する	a: 仮名の特徴を理解し、基本点画や連綿の運筆など筆使いを身に付け、表している。 b: 書作時の表現の工夫を活かせるよう、古典の技法・構成法を鑑賞する。	WS 作品	WS 作品	
2 学期	「漢字仮名交じりの書」 作品制作	◆題材の詩句の内容・用具用材の特徴を理解し、古典学習で習得した技能、鑑賞で得た感動をもとに、創造的工夫を持って書作する。	b: 語句の意味を考え、制作時の表現意図を作品に反映するように工夫する。 c: 作品の相互批評を行い、自他の作品の意図を考え、個々にしか書けない文字の尊さを感じている。		WS 作品	WS 観察
	「篆書」の 基本学習 古典臨書 ・泰山刻石	◆篆書の変遷(時代を遡る)を学習していくことで漢字の成り立ちや構造を学習する。(象形・指示・会意・形声など) ◆篆書の用筆法を理解し、習得する。(逆筆・蔵鋒)	a: 用筆法を理解し、基本点画の習得に努め、構築性を考え身に付け表している。 c: 歴史的背景を理解し漢字への関心を深め、積極的に取り組んでいる。	WS 作品		WS 観察
	さまざまな 「篆書」 石鼓文 金文 甲骨文など	◆明・清時代の古典臨書などを参考に、用筆法・表現の工夫などを鑑賞する。 ◆各時代の文化と関連付けて、篆書の変遷を考える。	a: 各古典の時代背景や成立を理解している。 b: 各古典の特徴を理解し、当時の美意識と感性を持って創造的に表現を構想している。	WS 作品	WS 作品	
2 学期	「篆刻」 作品制作 ・選文 ・布字 ・押印 ・印稿 ・運刀 など	◆印の歴史を学習し、実際に漢時代の官職印を参考にした自用印を制作する。	a: 用具の使用方法を十分に理解し、作品が制作されている。 b: 漢時代の印の特徴を理解し、構築性のある印面制作について工夫している。 c: 物品・器物への取扱に注意し、安全に作業をし、意欲的に取り組もうとしている。	WS 作品	WS 作品	観察
3 学	「隷書」 ・木簡	◆書体変遷の中の、隷書の成り立ちを考察し、隷書にお		WS 作品	WS 作品	



※令和4年度以降入学生用

	・曹全碑 ・乙英碑 ・石門頌 など	ける美意識・書体の特徴を理解する。 ◆漢碑：木簡などの書体との技術的共通点と、楷書と比較・観察していくことで、文字変遷の過程の中での隷書について創造的に書作する。	a: 波磔など各古典の特徴をふまえた表現の技能を身に付け表している b: さまざまな隷書の特徴を理解し、各古典に合った技法を観察し表現を工夫している。			
--	----------------------------	--	--	--	--	--

評価方法記載欄の「WS」はワークシートとする。

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	2002
------	------

令和6年度 芸術科

教科	芸術	科目	音楽Ⅲ	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	Joy of Music (教育芸術社)						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「歌うこと」「楽器を演奏すること」「音楽をつくること」「音楽を聴くこと」の4つの分野を音楽Ⅰ、Ⅱの学習経験を基盤として、学習していきます。</li> <li>・音楽を形づくっている要素の働きが楽曲の特徴にどのような役割を果たしているかを理解していきます。</li> <li>・音楽文化についての理解を深めるために、音楽が文学や絵画などの諸芸術や他の文化と互いにどのように影響しあって発展してきたかを様々な教材を通じて考えます。</li> <li>・実技試験は授業中に発表形式で行います。お互いに聴き合うことで他人の表現を知り、刺激を受け、受け止めることで感性を広げて、今後の音楽表現に生かしていきましょう。</li> </ul>
--

2 学習の到達目標

<p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 音楽Ⅰの学習成果を踏まえ、文化的・歴史的背景や音楽の多様性について理解を深め、より広い視野で音楽を捉えることができるようにする。</p> <p>(2) 個性豊かな音楽表現を創意工夫できるようにするために、必要となる技能を身に付け高めることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的・協働的な音楽活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度や音楽の知的財産権を尊重する態度を養う。</p>
--

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
----	---------	------------	-----------------

※令和4年度以降入学生用

観 点 の 趣 旨	<p>歌唱・器楽などの音楽表現において、学んだことを取り入れ、自己のイメージを持ち、創意工夫できるように必要な知識・技能を身に付けている。</p> <p>また、鑑賞を通して音楽と社会との関わりや歴史的背景などを学び理解し、文章表現できている。</p>	<p>曲想を歌詞の内容や背景と関わらせてイメージし、曲種に応じた発声の特徴を生かすなど、学習した知識・技能を生かし、表現したい自己のイメージを膨らませながら、楽曲にふさわしい音楽表現を創意工夫しようとしている。また、鑑賞から得た知識・技能を生かし、思考・判断して創造的な表現をしようとしている。</p>	<p>主体的・協働的に幅広い活動に取り組み、その中で他者との調和を意識し、創意工夫過程で様々な表現を試している。また、楽曲の曲想や背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴に関心をもち、演奏したり鑑賞したりする学習に意欲的に取り組んでいる。</p>
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>			

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	表 現	<p>オリエンテーション～クラス の歌声を響かせよう 「Prpgress」 「アイノカタチ feat. HIDE」 「春よ、来い」</p>	<p>a:【知】様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。【技】姿勢や呼吸などの身体の使い方の技能、他者との調和を意識して歌う技能を身に付け、個豊かに表現している。</p> <p>b:親しみやすいポップスや効果の旋律・リズムを知覚し特質や雰囲気を感じながら自己のイメージを持って、表現している。</p> <p>c:歌詞の内容や作詞者・作曲者のメッセージを考えながら二部合唱で歌うことに関心を持ち、主体的・協働的に活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 確認テスト	レポート  実技テスト	観察  振返りシート
		<p>日本の伝統音楽や世界の諸民族の音楽を体験しよう 「日本音楽の特徴」「世界の諸民族の音楽」</p>	<p>a:【知】芸術としての音楽と文化的・歴史的背景、他の芸術や文化とのかわりについて理解するとともに意味や価値について理解する【技】創意工夫や表現上の</p>	ワークシート 確認テスト	レポート	観察

※令和4年度以降入学生用

			<p>効果を生かした演奏表現をするために必要な技能を身に付けながら、個性豊かに演奏表現を創意工夫する。</p> <p>b:音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、個性豊かに表現を創意工夫できている。</p> <p>c:言葉の特性や曲にふさわしい発声で表情豊かに歌うことに関心を持ち、主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>		実技テスト	振返りシート
		<p>英語でポップスを歌おう 「I need to be in love」</p>	<p>a: 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、それらによって生みだされる表現上の効果について理解している。</p> <p>b: 音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、個性豊かに表現を創意工夫できている。</p> <p>c: 言葉の特性や曲にふさわしい発声で表情豊かに歌うことに関心を持ち、主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 確認テスト	レポート 実技テスト	振返りシート
鑑賞		「レ・ミゼラブル」	<p>a: 【知】芸術としての音楽と文化的・歴史的背景、他の芸術や文化とのかかわりについて理解するとともに意味や価値について理解する【技】創意工夫や表現上の効果を生かした演奏表現をするために必要な技能を身に付けながら、個性豊かに演奏表現を創意工夫することへつなげる。</p> <p>b:音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、個性豊かな表現に結びつけている。</p> <p>c:言葉の特性や曲にふさわしい発声で表情豊かに歌うことに関心を持ち、鑑賞している。</p>	ワークシート 確認テスト	レポート	観察

※令和4年度以降入学生用

2 学 期	表 現	アンサンブルを楽しもう 「上を向いて歩こう」  ミュージカルの楽曲に挑戦 しよう 「夢やぶれて」	a:【知】表現の固有性や多様性について理解している。音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果、様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性について理解している。【技】他者との調和を意識して歌う、表現形態の特徴を生かす技能を身に付けている。 b:和音・和声を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、自己のイメージを持ち、意図して表現している。 c:和音・和声を学習することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート  確認テスト	実技テスト  レポート	観察          振り返りシート
	表 現 ・ 鑑 賞	コンサートを開こう① ～3年間のまとめとして	a:3年間の学習を通して、表現や鑑賞の「知識」に関する諸事項について理解している。また、技能に関する諸事項を身に付け、歌唱や器楽、創作で表している。 b:音楽ⅠⅡⅢで学んだ教材の音楽の諸事項を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、自己のイメージを持って歌唱や器楽、創作表現としてどのように表すかについて、思いや意図を持っている。 c:3年間の音楽学習のまとめとしてコンサートを企画実施することや、学習を経て、自分自身の音楽に対する考え方がどのように変容したかを考えることに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・共働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート  確認テスト	レポート	観察

※令和4年度以降入学生用

3 学期	表現・鑑賞	コンサートを開こう② ～3年間のまとめとして	<p>a: 3年間の学習を通して、表現や鑑賞の「知識」に関する諸事項について理解している。また、技能に関する諸事項を身に付け、歌唱や器楽、創作で表している。</p> <p>b: 音楽ⅠⅡⅢで学んだ教材の音楽の諸事項を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受感しながら、自己のイメージを持って歌唱や器楽、創作表現としてどのように表すかについて、思いや意図を持っている。</p> <p>c: 3年間の音楽学習のまとめとしてコンサートを企画実施することや、学習を経て、自分自身の音楽に対する考え方がどのように変容したかを考えることに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・共働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート (企画書)	実技テスト レポート	振り返りシート
---------	-------	---------------------------	--	-----------------	---------------	---------

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	2002
------	------

令和6年度 芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅲ	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	高校生の美術3 (日本文教出版)						
副教材等	ワークシート、プリント						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 創造的な造形力を育む態度を身につけましょう。</li> <li>・ 自分の個性や美的感性を磨くと同時に、他者の表現に共感する態度を磨きましょう。</li> <li>・ 用具や素材の取り扱いを正しく理解し、安全に気をつけて授業を受けましょう。</li> <li>・ 課題作品は最後までやり遂げ、完成させて提出しましょう。</li> <li>・ 授業のポイントや自身で気付いたことなどをメモしていきましょう。</li> </ul>
--

2 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</li> <li>・ 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きについて考え、主題を生成し創造的に発想したり構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めることができるようにする。</li> <li>・ 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</li> </ul>
---

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
----	---------	------------	-----------------

※令和4年度以降入学生用

観 点 の 趣 旨	画材、用具の扱いについて正しく理解し、表現活動に際し理にかなった取り扱いができる。	テーマや目的に応じて物事を多面的に考察し、創造的に造形する力、適切な手法技法を選択することができる。	色彩や構図法など学んだ表現技法や理論を活用しようとする態度、他者の作品に対して論拠のある共感や評価をしようとしている。
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>			

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学 習 内 容	単 元（題 材）の 評 価 規 準	評 価 方 法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	オ リ エ ン テ ー シ	美 し い と は 何 か	a: b: c:			



※令和4年度以降入学生用

	【デザイン】 ポスターを考える	ポスターの制作 「展覧会のポスター制作」	<p>a: 色彩に関する用語やその用法を理解し活用できる。テーマの意図やねらいを考えて混色する技術を身に付け表現することに関心をもつ。基本的な色彩の効果を理解し、それを主体的に構想に生かすことができる。絵の具の特性や技法に興味を持ち、表現に創意工夫ができる。</p> <p>b: テーマからイメージを広げ、そこから連想される事物の情景や、そのイメージに相応しい象徴的な配色が発想できている。</p> <p>c: 絵の具の混色効果を理解し、目的や意図に応じ、特性や効果を生かして表現している。</p>	ワークシート  作品	ワークシート  作品	ワークシート  作品
2学期	夏季休暇鑑賞課題	高校展の作品鑑賞	<p>a: 作品のよさや、作者の心情や意図と多様な表現に関心を持ち、作品について理解しようとしている。</p> <p>b: 同上</p> <p>c: 作品のよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、その感想を的確に表現できる。</p>	鑑賞 レポート	鑑賞 レポート	鑑賞 レポート
	【絵画】 絵画の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>油絵の制作「自由課題」</li> <li>作品鑑賞</li> </ul>	<p>a: さまざまな表現技法の造形的要素で感じ取ったことや考えたことに関心が持てる。技法に関心をもち表現できる。技法や材料、用具の特性を理解し、目的や意図に応じて、特性や効果を生かして表現している。</p> <p>b: 感じたことや考えたことから主題を生成し、主題を効果的に表現するために構図などの画面上のバランスを工夫できる。</p> <p>c: 他者の作品の表現の工夫を理解し、そのよさや美しさを味わっている。</p>	ワークシート  課題作品	ワークシート  課題作品	鑑賞 レポート

※令和4年度以降入学生用

3学期	【デザイン】版で表す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木版画の制作</li> <li>・作品鑑賞</li> </ul>	<p>a: 木版画の版の形式を理解し、作品を造形的に表現することに関心を持てる。主体的に主題を生成し、形や色彩などの造形的要素の働きを考え創意工夫して構想が練れる。特性を理解し、テーマに応じて特性や効果を生かして表現している。</p> <p>b: テーマに沿って造形的なおもしろさと調和を考え主題を生成している。</p> <p>c: 他者の作品の表現の意図や工夫を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。</p>	ワークシート  課題作品	ワークシート  課題作品	鑑賞 レポート
-----	------------	--	--	--------------------	--------------------	------------

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

※令和4年度以降入学生用

学校番号	2002
------	------

令和6年度 芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅲ	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	書Ⅲ (教育図書 出版)						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

書道の創造的な諸活動を通じ、生涯にわたり書を愛好する心情と書の文化や伝統を尊重する態度を育成するとともに、書道Ⅰ・Ⅱで学習した内容を更に深め、感性を磨き、個性豊かな書表現や鑑賞活動に取り組む。  
授業の進め方については、授業毎の目標を明確化し、表現(書作の意図・書写技能)と鑑賞を並行して扱い、評価については各単元・授業毎の作品・ワークシート提出等でおこなう。

2 学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情と書の伝統と文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな書の能力を高める。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
----	---------	------------	-----------------

※令和4年度以降入学生用

観 点 の 趣 旨	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、創造的かつ効果的な書表現をするために、使用する筆記具の特性を理解し、構想に基づいた表現の技能が身についている。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美の味わい深く捉えたりすることができるようになる。	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通じて心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

#### 4 学習の活動

学 期	単 元 (学習項目)	学習内容	単元の評価規準 (生徒の到達目標)	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	「漢字仮名混じり」の学習	◆グループ学習を行い、相互 批評をおこなうことで、コミュニ ケーション能力と他者の作品 を尊重する心情を育てる。 ◆漢字仮名混じり文で作品制 作を行なうための、基本的な 表現方法を硬筆で行う。	a: 構想をもとに、表現する技能 を身に付け表している。 b: 語句の意味を考え、制作時の 表現意図が作品に反映するよう 工夫している。 b: 作品の相互批評を行い、自他 の作品の意図を考え、個々にし	作品	WS 作品	観察 WS

※令和4年度以降入学生用

		<p>◆詩句のイメージ・内容を理解し、字形の変化や紙面への配置など、ふさわしい表現を構想・工夫し、硬筆で作品の草稿を作成する。</p> <p>◆毛筆での制作にあたり、詩句のイメージ・内容が伝わるように用筆法を工夫する。</p>	<p>か書けない文字の尊さを感じその良さを味わっている</p> <p>c: 表現とは何かを理解し、積極的に取り組んでいる。</p> <p>作品の唯一性を尊び、丁寧に作品を扱っている。</p> <p>製作段階に応じ、各観点を提示</p>			
	表具	<p>◆上記、制作した作品を文化祭に展示できるようパネルに表具する。</p> <p>◆各自の作品が唯一物であることを理解し、物品などに対し大切に扱う心情を育てる。</p>	<p>b: 表具の際のマット・化粧紙の色調など自分の作品に合うよう、工夫している。</p> <p>c: 作品表具の際、作品の唯一性を尊び、丁寧に作品を扱っている。</p>		作品	WS 作品
	硬筆	<p>◆硬筆で実用書を学び常識的な書式や文化を理解する。</p> <p>◆行書体での「暑中見舞い」を制作する。</p>	<p>a: ハガキの書式を理解し、丁寧さを持って制作し、工夫している。また、紙面の文字の大きさ・バランス・配置など適正である。</p> <p>b: 行書の特徴・技法を適切に表現できている。</p> <p>c: 書式に関心を持ち取り組んでいる</p>	WS 作品	WS 作品	WS
2 学期	古典臨書学習 臨書作品制作	<p>◆書道Ⅰ・Ⅱで学習した篆書・隸書・楷書・行書・草書・仮名を書道Ⅲの教科書を中心に順次学習する。</p> <p>◆書道Ⅰ・Ⅱで修得した技能・知識を確認しつつ、感性をもって臨書での表現を工夫する。</p> <p>◆様々な書体の中から、興味をもち得意となる古典を発見させる。</p>	<p>b: 各古典の特徴を考察し、美しさや趣を味わい、構想に応じ表現を工夫している。</p> <p>c: 興味を持った古典について、積極的に作者や時代背景を探求し作品を制作している。</p>		WS 作品	WS 観察

※令和4年度以降入学生用

3 学 期	共同作品 ・「卒業の歌」	<p>◆卒業式に歌う「卒業の歌」を題材に、協同作品を制作する。</p> <p>◆歌詞全体を受講生全員で分担し、半紙程度の作品サイズで制作し卒業式に展示する。</p> <p>◆担当部分の前後する作品の構成を考慮し、常に全体でコミュニケーションをとりながら作業を進める事で、共同作品としての作品レベルの向上と責任感の共有を意識付ける</p>	<p>b: 自分の作品だけでなく、共同作品として構成するにあたり、自他の作品が活かせるよう相互批評を有効に活用し、自分の表現を構想・工夫している。</p> <p>c: 表現とは何かを理解し、学生生活最後の作品として、受講生全体で協調・協力の念を持って作品制作に積極的に取り組んでいる。</p>		作品	作品 WS
-------------	-----------------	--	--	--	----	----------

評価方法記載欄の「WS」はワークシートとする。

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	2002
------	------

令和6年度 芸術科

教科	芸術	科目	(学)幼児教育音楽	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	なし						
副教材等	バイエル教本、自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

幼児教育系に進学をめざす生徒を対象に、ピアノ演奏の基礎、歌唱、アンサンブルの表現の諸能力を養います。

幼児教育における、実践的、効果的な音楽表現について学び、楽曲のイメージを、音楽がどのように形づくられているかということに関連させて表現する方法について学習していきましょう。実技試験は授業中に個別、又は発表形式で行います。お互いに演奏を聴き合うことで他者の表現を知り、刺激を受け、受け止めることで感性を広げていき、今後の音楽表現に生かしていきましょう。

2 学習の到達目標

幅広い音楽活動を通して、楽曲の表現内容を理解し、表現意図を明確にして創造的に表現する能力を養う。

(1) 音楽の多様性について理解を深め、より広い視野で音楽を捉えることができるようにする。  
 (2) 主にピアノの基礎を学び、必要となる技能を身に付け高めることができるようにする。  
 (3) 主体的・協働的な音楽活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育む。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
----	---------	------------	-----------------

※令和4年度以降入学生用

観 点 の 趣 旨	主に基礎的ピアノの音楽表現において、学んだことを取り入れ、自己のイメージを持ち、創意工夫できるために必要な知識・技能を身に付けている。	学習した知識・技能を生かし、表現したい自己のイメージを膨らませながら、楽曲にふさわしい音楽表現を創意工夫しようとしている。	主体的・協動的に幅広い活動に取り組み、その中で他者との調和を意識し、創意工夫過程で様々な表現を試し、意欲的に取り組んでいる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

#### 4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	表 現 の 基	オリエンテーション ピアノの奏法の基礎  バイエル  No1～26	a:【知】楽器の特徴や楽譜の読み方について理解している。【技】基本的な技能を身に付けている。 b:授業の振返りの中で、自己の課題をみつけ、スキルアップに役立っている【思】【表】 c:様々な演奏に関心を持ち、主体的・協動的に活動に取り組もうとしている。	ワークシート  確認テスト	レポート  実技テスト	観察  振返りシート



※令和4年度以降入学生用

	礎	童謡に親しもう	<p>a:【知】曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。【技】歌唱表現するために基礎的な発声の技術を身に付け表現できている。</p> <p>b:音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、個性豊かに表現できている。</p> <p>c:言葉の特性や曲にふさわしい発声で表情豊かに歌うことに関心を持ち、主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 確認テスト	レポート  実技テスト	観察  振返りシート
2学期	表現の発展	自由曲	<p>a:【知】楽器の特徴や楽譜の読み方について理解している。【技】基本的な技能を身に付け、表現している。</p> <p>b:授業の振返りの中で、自己の課題を見つけ、スキルアップに役立っている【思】【表】</p> <p>c:様々な演奏に関心を持ち、主体的・協働的に活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 確認テスト	実技テスト レポート	観察  振返りシート
		「こどものうた」に親しもう	<p>a:【知】曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解している。【技】歌唱表現するために基礎的な発声の技術を身に付け表現できている。</p> <p>b:音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、個性豊かに表現を工夫できている。</p> <p>c:言葉の特性や曲にふさわしい発声で表情豊かに歌うことに関心を持ち、主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 確認テスト	レポート	観察

※令和4年度以降入学生用

3 学期	表現 ・ 鑑賞	コンサートを開こう ～音楽IIのまとめとして	<p>a:一年間の学習を通して、表現や鑑賞の「知識」に関する諸事項について理解している。また、技能に関する諸事項を身に付けている。</p> <p>b:音楽の諸事項を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように表すかについて、思いや意図を持っている。</p> <p>c:1年間の音楽学習のまとめとしてコンサートを企画実施することや、音楽活動を楽しみながら主体的・共働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート (企画書)	実技テスト レポート	振り返りシート
---------	---------------	---------------------------	--	-----------------	---------------	---------

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	2002
------	------

令和6年度 芸術科

教科	芸術	科目	書道演習	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	なし						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

書作を通して、書に関心を持ち愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、探究心を育成し表現と鑑賞の能力を伸ばす。  
 また、相互批評などのグループ学習をすることでコミュニケーション能力の向上をめざし、書道芸術作品と自他を尊重する心を育む。  
 授業の進め方については、授業毎の目標を明確化し、表現(書作の意図・書写技能)と鑑賞を並行して扱い評価については、各単元・授業毎の作品・ワークシート提出等でおこなう。

2 学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育成するとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞能力を伸ばす。書を生活の中で身近なものであると認識し、文化的教養を身に付けるとともに表現することを通じ自他を尊重する心を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
----	---------	------------	-----------------

※令和4年度以降入学生用

観 点 の 趣 旨	創造的かつ効果的な書表現をするために、使用する筆記具の特性を理解し、構想に基づいた表現の技能が身についている。	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	書の創造的活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

#### 4 学習の活動

学 期	単 元 (学習項目)	学 習 内 容	単 元 の 評 価 規 準 (生徒の到達目標)	評 価 方 法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	「いろはうた」による 作品製作①	◆「いろはうた」を題材に作品製作をする。 ◆様々な表現技法を習得する。	a: 1本の筆で様々な線を書き分ける技能を身に付け表している。 c: 制作意図を理解し積極的に取り組んでいる。	作品		観察 WS
	「いろはうた」による 作品製作②	◆全員同じ言葉を使用し、作品制作をすることで、自分にしか書けない作品をテーマにし、文字における個	a: 用筆法を工夫し、字間行間を工夫している。 b: 自分の作品の工夫、他者の作品の工夫を相互批	作品	作品	WS 作品

※令和4年度以降入学生用

		性と表現の工夫を個々に見つけ出す。	正し合う事で、個々の作品の良さを味わっている。 c:制作意図を理解し積極的に取り組んでいる			
	「いろはうた」作品の 軸装・篆刻	◆制作した作品を展示できる形にすることで書作品への関心を深めるとともに次回作への向上心と反省の念を促す。 ◆「いろはうた」作品に押す印の制作	c:表具(装丁)作業において自分の作品を大切に扱っている。 物品・器物への取扱に注意し、安全に作業を行っている。 b:作品に合う印になるよう工夫している。		WS 作品	WS 作品
2 学期	小作品制作	◆墨・紙と字形の変化を工夫し、語句、単語を豆色紙に書作する。 ◆作品の趣が、語句の意と合致するよう表現の工夫を促す。	a:作品の意図に合わせて用筆・レイアウトなど作品制作に関する知識を有しているか。 b:語句の意味を考え、意図をもって表現できているか c:制作時の意図を理解し積極的に取り組んでいる。	作品	WS 作品	WS 観察
	さまざまな書式	◆命名・結納など筆書きの書式を学習する	a:書式に対する知識を理解しているか。 b:用筆法だけでなく、紙面に対する文字の大きさや余白を考え工夫している。 c:書式に応じて美しい文字を書くために、積極的に取り組んでいる。	WS 作品	WS 作品	WS

※令和4年度以降入学生用

3 学 期	さまざまな表現	<p>◆ポスターやメニューを作成する</p> <p>◆自分の氏名や商品や店名ロゴを筆文字でデザインする</p>	<p>a:実際のロゴ・ポスターなどを参考に、表現方法の修得に努めている。</p> <p>b:制作者の表現の意図や、紙面に対する文字の大きさ配置など b:適切な表現方法を選択し、文字の大きさや配置など、構想に基づいて積極的に取りくんでいる</p> <p>また、根拠を持って相互          批正している。</p> <p>c:実際のロゴ・ポスターなどを参考に、表現方法の工夫に努めている。</p>	WS 作品	WS 作品	作品 WS
-------------	---------	---	---	----------	----------	----------

評価方法記載欄の「WS」はワークシートとする。

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	2002
------	------

令和6年度 芸術科

教科	芸術	科目	硬筆書道	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	なし						
副教材等	自主教材プリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

個々の書き癖を理解させ、美しく文字を書くために必要な目標を個々に立てさせることで、丁寧で読みやすい文字を書く心情を育てる。  
 文字の字形だけでなく文字の大きさや配置で印象が変わることを理解させる。授業の進め方については、授業毎の目標を明確化し、表現(書作の意図・書写技能)と鑑賞を並行して扱い評価については、各単元・授業毎の作品・ワークシート提出等でおこなう

2 学習の到達目標

文字を美しく書きたいという欲求と心情を育てる。文字により文化が伝達・継承されてきたことを理解し、読みやすく美しい文字を書くことの必要性を学ぶ。縦書き、横書きなど様々な書式を使用する上で、文字の大きさや配置などバランスよく書くとは何かを考える。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
----	---------	------------	-----------------

※令和4年度以降入学生用

観 点 の 趣 旨	書が身近なものであることを実感し、書の伝統と文化に関心を持って創造的かつ効果的な書表現をするために、使用する筆記具の特性を理解し、表現方法を選択し活用できるよう、様々な表現技能を習得する。	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、書の創造的活動の喜びを味わい、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさ、書の表現意図について主体的に表現や鑑賞ができる態度を育む。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

#### 4 学習の活動

学期	単 元 (学習項目)	学習内容	単元の評価規準 (生徒の到達目標)	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学期	印象の良い文字の書き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆丁寧で読みやすい文字を書く心情を育てる。</li> <li>◆紙面・マス目に対しての文字の大きさの学習</li> <li>◆ボールペンの用筆法</li> </ul>	<p>a：筆記具に応じた持ち方や使用法を身に付け表している。</p> <p>c：丁寧で読みやすい文字を書こうと意欲的・向上心を持って取り組んでいる。</p>	作品		観察 WS



※令和4年度以降入学生用

	漢字（楷書）の学習	<p>「部首別による学習」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆部首名の学習</li> <li>・部首ごとに結構法を学習する。</li> <li>◆旧字体・異体字の知識</li> <li>◆紙面・マス目に対しての文字の大きさの学習</li> </ul>	<p>a：文字を美しく書くための方法の理解し、文字の大きさ・配置などを理解している。</p> <p>b：他者の作品と自分の作品とを比較し、共通の長所・短所を模索することで、配置や結構法などバランスとは何かを考えその良さを味わっている。</p> <p>c:積極的に取り組み、知識・技能の向上に努めている。</p>	作品	作品	WS 作品
		<p>「横書き文章の学習」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆横書き文章のまとめ方の学習</li> <li>・自分の名前や住所などを中心に履歴書の制作を行なう。</li> </ul>				
2 学期	縦書き文章の練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆はがき・封筒の表書き書式</li> <li>◆縦書き文章のまとめ方の学習</li> <li>・手紙文を題材に縦書き文章のまとめ方を学習する。</li> <li>・時候の挨拶など日本文化としての手紙の書式を学習する。</li> </ul>	<p>a：文字を美しく見せるための方法の理解し、文字の大きさ・配置などを工夫している。</p> <p>b：文字を美しく書くための方法の理解し、文字の大きさ・配置などを工夫し書作している。</p> <p>c:丁寧で読みやすい文字を書こうと意欲的に取り組もうとしている。</p>		WS 作品	WS 作品
	行書による学習①	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自分の名前の楷書・行書の違いを意識し書く。</li> <li>◆前単元の内容を、行書を扱い学習する。</li> </ul>	<p>a：楷書・行書の違い観察し、表現に結びつけその良さを味わっている。</p> <p>c：新しい書体について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。</p>	作品		WS 観察
	行書による学習②	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆前項の内容をふまえ筆ペンを使用し年賀状や祝儀袋などの書き方を学習する。</li> </ul>	<p>a:筆ペンを、効果的に使用する技能を身に付け表している。</p> <p>b:行書の特徴をふまえて、文字を美しく書くための方法の理解し、文字の大きさ・配置などを工夫している。</p> <p>c：新しい技能習得に積極的に取り組んでいる。</p>	WS 作品	WS 作品	観察

※令和4年度以降入学生用

<p>3 学 期</p>	<p>感謝状の作成</p>	<p>◆卒業にあたり、筆ペンを使用し感謝状を作成する。 ◆賞状筆耕の書式・規範に従い制作する事で、文字の大きさ・太さ・配置などを工夫し、文書全体のバランス感覚を養う。</p>	<p>a:賞状制作時の規範に従い作成している。 また、筆記具の違いを理解し、太さの違いと文字の大きさに変化をつけ、書作することができる。 b:他者の作品と自分の作品とを比較し、長所・短所を模索することで配置や結構法・配置など、書作に活用できている。 c:感謝の念を込め、丁寧に書作している。</p>	<p>作品</p>	<p>WS 作品</p>	<p>WS 観察</p>
----------------------	---------------	---	---	-----------	------------------	------------------

評価方法記載欄の「WS」はワークシートとする。

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	2002
------	------

令和6年度 芸術科

教科	(専)美術	科目	素描	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	なし						
副教材等	ワークシート、プリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<p>造形表現の基礎となるものの見方を学び観察力をつけましょう。</p> <p>デッサンでは卓上モチーフや自画像の鉛筆デッサンを行います。</p> <p>対象の客観的な観察を通して構造を理解し、正確な描写力を身につけましょう。また。光源を意識した明暗の表現や固有色、材質感を表現する能力を高めましょう。</p> <p>クロッキーでは短い時間で描画する「人物クロッキー」を行います。</p> <p>デッサンでは鉛筆を使用しますが、人物クロッキーでは鉛筆以外の画材も使用する予定です。</p>
--

2 学習の到達目標

<p>対象のイメージや空間を把握し、造形表現の基礎となる観察力と描写力を高める。</p>
--

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
----	---------	------------	-----------------

※令和4年度以降入学生用

観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現材料の特性について理解を深め効果的に使用できたか</li> <li>・描く対象を観察し、形体を把握した表現ができているか</li> <li>・正確に描写をするための基礎となる技能を身に着けているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象の特徴を理解して構成するための基礎となる思考力・判断力・表現力が育成できているか</li> <li>・空間を把握するための基礎となる思考力・判断力・表現力が育成できているか</li> <li>・光源を意識した造形表現を追求することができるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構図について主体的に造形表現を追求することができたか</li> <li>・質感について主体的に造形表現を追求することができたか</li> <li>・作品の完成に向けて主体的に制作表現を追求する態度を身に着けることができたか</li> </ul>
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>			

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学 習 内 容	単 元（題 材）の 評 価 規 準	評 価 方 法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	鉛 筆 デ ッ サ ン と ク ロ ッ キ ー ①	1点モチーフ クロッキー ・課題制作 ・作品鑑賞	a: 素描に関する用語や描画材料の用法を理解し使用できる 基本形態を描写する際の注意点を理解し正しく形がとれる  b: モチーフの形を構造的に理解し画面構成を考え表現できる 光源を意識した表現ができる  c: 画面に最適な構図で描写できる 作品完成に向けて制作表現を追求することができる 相互鑑賞ができる	ワークシート 作品	ワークシート 作品	ワークシート 作品

※令和4年度以降入学生用

2 学期	鉛筆 デッサンとクロッキー②	複数モチーフ クロッキー ・課題制作 ・作品鑑賞	a: 素描に関する用語や描画材料の 用法を理解し使用できる 基本形態を描写する際の注意点を 理解し正しく形がとれる b: モチーフの形を構造的に理解し 画面構成を考え表現できる 空間を意識した表現ができる 光源を意識した表現ができる c: 画面に最適な構図で描写できる 作品完成に向けて制作表現を追求 することができる 質感表現を追求している 相互鑑賞ができる	ワークシ ート 作品	ワークシ ート 作品	ワークシ ート 作品
3 学期	鉛筆 デッサンとクロッキー③	複数モチーフ クロッキー ・課題制作 ・作品鑑賞	a: 素描に関する用語や描画材料の 用法を理解し使用できる 基本形態を描写する際の注意点を 理解し正しく形がとれる b: モチーフの形を構造的に理解し 画面構成を考え表現できる 空間を意識した表現ができる 光源を意識した表現ができる c: 画面に最適な構図で描写できる 作品完成に向けて制作表現を追求 することができる 質感表現を追求している 相互鑑賞ができる	ワークシ ート 作品	ワークシ ート 作品	ワークシ ート 作品

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

※令和4年度以降入学生用

学校番号	2002
------	------

令和6年度 芸術科

教科	(専)美術	科目	クラフトデザイン	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	なし						
副教材等	ワークシート、プリント						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

美的造形性や機能性の学習と実習を通して、クラフトデザインについて理解を深めましょう。  
また、計画する力、表現のための技法と作図・読図、作品鑑賞力も高めていきましょう。

2 学習の到達目標

美的造形性や機能性を主とする造形のデザインについての理解を深め、鑑賞の能力を高める。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
----	---------	------------	-----------------

※令和4年度以降入学生用

観 点 の 趣 旨	制作方法を理解し意図に応じて材料や用具の活用ができる。  手順や技法などを吟味し、創意工夫して制作している。	感性や想像力を働かせ身近な生活や自己の思いなどから心豊かに発想し用途と美しさの調和を考え制作の構想を練っている。	作品のよさや美しさ、作者の心情や意図、表現の工夫を感じ取り制作過程における工夫や素材の活かし方、社会を豊かにする工芸の働きに理解を深めている。
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>			

#### 4 学習の活動

学 期	単 元 名	学 習 内 容	単 元（題 材）の 評 価 規 準	評 価 方 法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	導 入	人とモノとのかかわりについて考える				

※令和4年度以降入学生用

	基礎演習 ペーパークラフト	ペーパークラフト	a:対象の構造を理解し、実際に制作できる図面が描ける。図面に基づいた工作ができる。 b: 図面を通じて形体を理解し、図法を使い正確に表すことができる。 c:作品のよさや美さ、作者の意図を感じ取り、その感想を的確に表現できる。	ワークシート  作品	ワークシート  作品	ワークシート  作品 レポート
2学期	夏季休暇鑑賞課題	高校展の作品鑑賞	a: 作品のよさや、意図と多様な表現に関心を持ち、作品について理解しようとしている。 b:同上 c:作品のよさや、作者の心情や意図と多様な表現の工夫などを感じ取り、その感想を的確に表現できる。	鑑賞 レポート	鑑賞 レポート	鑑賞 レポート
	ウッドクラフト	ウッドクラフトで椅子の制作	a: 様々な用具・工具について特性や機能を理解し安全に使用することができる。 b:課題のテーマに基づいて、材料の特徴を生かしデザインできる。 c: 作品の表現や工夫を理解し、その表現の工夫などを感じ取り、その感想を的確に表現できる。	ワークシート  作品	ワークシート  作品	鑑賞  作品 レポート
3学期	レザークラフト	レザークラフトでコースターの制作	a: 様々な用具・工具について特性や機能を理解し安全に使用することができる。 b: 課題のテーマに基づいて、材料の特徴を生かしデザインできる。 c: 作品の表現や工夫を理解し、その表現の工夫などを感じ取り、その感想を的確に表現できる。	ワークシート  作品	ワークシート  作品	鑑賞  作品 レポート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度